

【評価報告書】

学校法人黒木学園
認定こども園徳力団地幼稚園

認定こども園第三者評価結果報告書

報告内容	公表／非公表	ページ
運営法人情報	公表	P1
理念・基本方針		
施設の特徴的な取組		
第三者評価結果の総評		P2
第三者評価結果		P3～15
第三者評価確認書類リスト	非公表	P16～P18
第三者評価結果（詳細）	非公表	P19～P37

(一財) 全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

【運営法人情報】

施設名称	認定こども園徳力団地幼稚園
運営法人名称	学校法人黒木学園
施設種別	認定こども園
代表者氏名	理事長 長森 健
施設所在地	福岡県北九州市小倉南区徳力団地 1-2
電話番号	093-962-2465
FAX 番号	093-962-2755
ホームページアドレス	http://tokurikidannchi-youchien.com
メールアドレス	tokurikidanti-kg@khe.biglobe.ne.jp
事業開始年月	昭和 45 年 4 月
保育者数・職員数	58 名
施設・設備の概要	園地総面積 2013.24 m ² 園舎敷地 1178.2 m ² 運動場 768.19 m ²

【理念・基本方針】

<p>【教育理念】 遊びの中からすべてを学ぶ</p> <p>【教育目標】 個性を発揮しながら 豊かな遊びを通して 自分らしく生きる力の基礎を育む</p>
--

【施設の特徴的な取組】

<p>四季折々の遊び、活動、日本の文化、伝統、地域との交流を大切にしながら、幼児期に必要な体験が出来るような園生活を行う。</p>

【評価機関情報】

評価機関名	(一財)全日本私立幼稚園幼児教育研究機構
評価実施期間	令和 6 年 2 月 16 日
評価者	H28A00540、H29B00644
ECEQ®コーディネーター	EH29400254、EH29400253、EH27400169、EH27400170、ER01400345、EH28400216

【総評】

●総合評価

評価〔 A 〕

徳力団地幼稚園の名の通り、地域に密着し地域を巻き込んだ保育のカリキュラム実践に取り組み、「幼児と地域の変容を捉えた保育」という園の課題だけではなく、地域の課題も子どもたちの教育と位置付け実践している視野の広さにも敬意を表したい。園の教育理念や目標が、すべての保育の基盤として実践されていることが、実践や記録によってよくわかる。子どもと保育者の関係性も柔軟で安定感がある。興味関心を促す環境の構成も評価でき質の高い保育が展開されている。

●特に評価が高い点、園の良さ等

人的環境の豊かさは、大きく評価できる分野であると感じる。それぞれの保育者の動きやスタンスなど、互いの役割や連携がよく理解できていることで、一人ひとりの子どもの援助がうまくおこなわれている。

運営面では各種運営・保育に関するすべての書類が適切にファイリングされ整理・管理・保管されていた。書類の確認対応でもすべてを理解されていて、書類管理が徹底されていることを評価の高い点として挙げてさせていただく。

●課題、改善を求められる点

園庭や園舎の空間・場において、より良い工夫や活用がなされる余地が残されているように思う。特に、屋外の場については、子どもたちの自発性が広がる、さまざまな自由な遊びを期待したい。

安全管理の課題として4点課題を挙げた。すぐに改善できる課題、中長期的に改善する課題とあるが、子どもたちの安全のために教職員と話し合い改善ができればと考える。

●第三者評価結果に対する法人・施設のコメント

日常の保育、特に人的環境や保育活動の充実について、高く評価していただき職員一同喜んでおります。課題としてあげられた、環境整備や安全面への配慮について、今後職員で話し合いを重ね改善します。今後とも命を守る生活と豊かな保育を推進していけるように努力を重ねていきたいと思っております。

【第三者評価 結果】

I 保育の公開に伴う保育のプロセス評価

1. 事前訪問時に抽出された自覚的な良さや課題

カリキュラム・マネジメントが構築されており、職員間は良き同僚性が構築され若手と経験者のバランスがよく配分され、経験者がうまく若手を導き、園の教育方針などが浸透していたことが確認できた。また、乳児部と幼稚園部の垣根を低くするため、敢えて行事等で連携が図れるよう工夫がなされ未満児と以上児の一体的な保育実践を垣根無く実践していた。

令和5年度の重点目標に設定された「地域との連携」では、園周辺の施設や公園などを散歩で訪れ、地域の施設等を積極的に利用し地域の方々にも好意的に受け入れられるようにカリキュラムを実践していた。

明るく過ごしやすい新しい園舎であるが、子どもたちのあそびをより深めるため園庭を改良したいとの園長の思いを聞くことができた。子どもたちのあそびや教職員の思いを活かした園庭整備を進めることで、体を動かしたい気持ちや没頭して取り組める遊びができる園庭づくりを期待する。

クラス的人数がやや多めであり、特別支援を必要とする子どもも数名ずつ確認できた。チーム保育職員や加配教職員との連携や配置についても、より深い連携が必要である。

2. 公開保育実施前後における課題等

①公開保育実施時の課題等

0・1歳児の課題として「一定の大人とのかかわりの中で子どもたちの主体的な遊びを保障する環境や保育者のかかわり」。2歳児では「子どもたちがあそびに積極的に取り組む中で、少しずつ集団の保育に向けたかかわりの中で自己をどのように表現するための手立てや、集団でいることの楽しさなどを学ぶことができるような保育者援助」。3歳児では「自分の気持ちを伝えられるようにするために、教師のかかわりとして活動で工夫できること」。4歳児では「対話の中で、子どもの考えや想像力、発想を引き出す保育者の工夫や問いかけ」と「子ども達が“自分達のまち”に興味、関心をもっていると思われるか」。5歳児では「遊びの中でどのような協同的な姿がみられたか」や「相手の話に耳を傾ける、また学級活動中に話を聞く態度が身に付くためには、どのような保育者の関わりが必要か」と課題が挙げられていた。

②公開保育後の協議会における外部から見た良さや課題

教師のかかわりや教室の雰囲気、子どもたちの主体的な取り組みの中からの表現活動の良さや課題の取り組みについて高評価であった。全体的には教職員から出た課題と公開保育でいただいた意見と大体一致していた。認定こども園としての特性を活かし、0,1,2歳から年少への接続を滑らかにして発達を促していくことや、全職員が園の理念や教育目標を深く理解して保育に臨むことで、更に年齢を超えた情報の共有や連携の充実を図っていければ良いのではと協議会で挙げられていた。

3. 事後の園内研修において整理された良さや課題ならびに課題解決の方策

令和5年度から「地域との連携」を重点目標に置き、0歳から5歳児のカリキュラムを構築していく中での公開保育であった。これまでの取り組みを参加者と共有するためにポスター（年齢別）を製作して、公開保育前に参加者に発表しカリキュラムの理解を深めたことで、課題等解決に向けた方策等をいただくことができたのではないかと。実践している保育に誇りを持ち、参加者の意見を広く頂きたいという真摯な姿には好感が持て、カリキュラムの改善の方策等も明確になったのではないかと。

徳力団地幼稚園の名の通り、地域に密着し地域を巻き込んだ保育のカリキュラム実践に取り組み、「幼児と地域の変容を捉えた保育」という園の課題だけではなく、地域の課題も子どもたちの教育と位置付け実践している視野の広さにも敬意を表したい。「自分らしく生きる力の基礎を育む」という教育目標を鑑み、もっと子どもたちの発想を大切に、もっと子どもと共に生み出していく保育を大切に、子どもと対話的なカリキュラムが指導計画の中に位置付けられるようになると、より質の向上に貢献していくのではないかと期待する。

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< A 教育・保育 >

① 子どもの人権、安全と健康

	調査項目	確認結果
1	一人一人の子どもの家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。	○済・未
2	子どもや保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。	○済・未
3	身体、性、年齢、発達之差等、生来的な差によって子どもに不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。	○済・未
4	園庭の環境（空間と遊具）や室内の環境（家具や動線）の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。	○済・未
5	子どもの成長や食べる意欲が大事にされた食育（食べることの全ての営み）がなされている。	○済・未
6	園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、保育者と子どもに、共に大切に扱われている。	○済・未
7	全ての子どもが「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子ども集団（学級）のなかにある。	○済・未
8	園生活の中で、大切にしたい信心（特定の宗教を含む）が自然と保育に融けこみ、子どもたちに愛情や感謝の気持ちが育っている。	○済・未
<p>(コメント)</p> <p>園内に独自の給食室を持ち、子どもの成長に伴うや食べる意欲が大事にされた食育を進めていることが分かる。そんな食育の在り方だけでなく、子どもたちにとって基本的で豊かな生活を創ることを大切にしている園である。</p>		

②保育者等の資質向上・研修

	調査項目	確認結果
1	豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	済・未
2	保育者等の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	済・未
3	自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	済・未
4	公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができている。	済・未
5	職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	済・未
6	保育者等一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。	済・未
7	子どもと関わることを喜び、子どもの遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。	済・未
8	保育者等一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>保育者の研修回数も多く、より良い保育を実践していく前向きな姿勢があふれている。園長を含めた保育者同志の協議等もよくおこなわれ、園全体で質の高い保育を創りあげて行こうとする思いは伝わってくる。</p>		

③教育・保育における実践

1) 子ども理解

	調査項目	確認結果
1	乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人一人の子どもの内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を保育者全体が理解しようとする風土を持っている。	済・未
2	子どもの姿や育ち、実践について様々な手法（日誌、環境図、エピソード、写真、動画等）を用いて記録し、一人一人の子ども理解に努めている。	済・未
3	子どもの記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子ども理解の共有を保育者間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直すなど、保育の計画に活用している。	済・未
4	遊びや活動の意味についてそれが子どもの成長とどう関連しているのか、記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。	済・未
5	園での子どもの育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子ども理解の幅を広げようと努めている。	済・未
6	特別な配慮を必要とする子ども一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。	済・未
7	特別な配慮を必要とする子どもの家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子ども理解を図っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子どもの姿や育ち、実践について様々な手法（掲示ポスター、エピソード記述、写真、動画等）を用いて伝え、保育者のみならず保護者にも一人一人の子ども理解ができるよう努めている。</p>		

2) 教育・保育の計画

	調査項目	確認結果
1	幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子どもの発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	済・未
2	子どもの発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	済・未
3	日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直している。	済・未
4	個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	済・未
5	保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	済・未
6	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。	済・未
7	計画は実践につながりながら、気候やその日の子どもの状態等に即して柔軟な対応がなされている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>計画は、子ども理解と実践が密につながりながら作成されている。とりわけ、子どもの遊びの姿を反映させていく計画が大事にされ、遊びは学びという保育の基本がそこにある。</p>		

3) 環境の構成

	調査項目	確認結果
1	<園舎等の空間>子どもたちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子どもの自主性・自発性を尊重すると共に、子ども同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。	済・未

2	<遊具・家具・絵本・廃材などについて>子どもの成長に合わせた遊具や絵本が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。	済・未
3	<園庭について>外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。	済・未
4	<動植物の飼育、栽培について>身近な動植物に親しみを持って接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。	済・未
5	<表現活動について>多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。	済・未
6	<数量・図形・文字標識などの環境について>数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。	済・未
7	<衛生管理について>施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。	済・未
8	<メンテナンスについて>手洗い場や机・椅子等、子どもの身体にあった大きさで整えられ修繕されている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子どもの成長に合わせた遊具や絵本が、適切な場、量で用意され、子どもが自主的に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりすることができるような展開を目指していることが分かる。</p>		

4) 実践

	調査項目	確認結果
1	<p>乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。</p> <p>(1)子どもが保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。</p> <p>(2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。</p>	済・未

	<p>(3)子どもが友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。</p> <p>(4)子どもの発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。</p> <p>(5)在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。</p>	
2	<p>子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。</p> <p>(1)子どもが主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。</p> <p>(2)子どもが自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。</p> <p>(3)子どもの主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。</p> <p>(4)子どもが周囲の自然に親しみを持ち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。</p> <p>(5)子どもの発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。</p>	済・未
3	<p>遊びを通した総合的な指導を行っている。</p> <p>(1)子どもが主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。</p> <p>(2)子どもが発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。</p>	済・未
4	<p>子ども一人一人の特性や発達の過程に応じた指導をしている。</p> <p>(1)子ども一人一人の発達の過程や生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(2)子どもが主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(3)子ども一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の教育・保育に当たっては、ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。</p>	済・未
5	<p>行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子どもが季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(2)子どもが行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子どもが地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機</p>	済・未

	会を作っている。	
<p>(コメント)</p> <p>園全体が子どもが主体的に自分の目的を持って遊び込める時間と空間を保障しようとしている保育者の願いが広がる雰囲気がある。どのクラスも一人ひとりの子どもが、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている様子が見られた。</p>		

5) 記録・振り返り

	調査項目	確認結果
1	個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子どもの状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。	済・未
2	記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。	済・未
3	適宜、実践の振り返りと評価をする機会がある。	済・未
4	情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。	済・未
5	園内で共有された子どもの育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>保育者同志が共有する記録が、きちんと整理され実践の振り返りがやりやすい。また、保護者や地域社会等の園外に向けて発信するような保育記録も大切にしている。学校評価の公表も着実に実施している。</p>		

④家庭や小学校、地域との連携

	調査項目	確認結果
1	小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	済・未
2	子どもの成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	済・未
3	自己評価・学校関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	済・未
4	子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	済・未
5	教育時間終了後等に行われる保育は、子どもの生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	済・未
6	地域の資源を積極的に活用し子どもが豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>地域に園独自の「子育てセンター」を創設するような試みをおこない、地域と一体となった子育て支援を進めている。このような画期的な実践は、保育の新しい扉を開く実践と言える。</p>		

Ⅱ. ヒアリング等・書面等による評価

< B 運営 >

①運営体制

	調査項目	確認結果
1	教育・保育に対する理念や方針が明確である。	済・未
2	コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。	済・未
3	会計事務を適切に行っている。	済・未
4	人材確保や継続して勤務できる職場環境である。	済・未
5	教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。	済・未
6	適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。	済・未
7	学校評価を実施している。	済・未
8	適正な法人運営を行っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>学校法人黒木学園理事長長森先生は医療法人・社会福祉法人も運営しており、とてもガバナンスが強化されていた。各種運営のために必要な書類や教育保育に関する書類も適切に管理されていることがわかった。</p> <p>徳力団地の幼児教育機関として認定こども園への移行後も、安定した財源の確保、園児数の維持がなされ、地域からの信頼も厚く地域と密着した幼稚園であることがわかった。また、園長先生自ら修士課程を受講され、園の教育・保育質を向上できる職場環境であることがわかった。</p>		

②安全管理

	調査項目	確認結果
1	自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	済・未
2	教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	済・未
3	園舎、遊具及び車両の安全点検や環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	済・未
4	園児の衛生・健康管理に努めている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>安全管理について、各種マニュアルが整備され、教職員、保護者にも周知徹底されている。地域の特性に応じて、様々な想定をしながら毎月の訓練もなされ、非常時への備えがなされている。園庭遊具では毎月チェック表に基づく安全点検が行われていた。今後の改善として4点あげさせていただく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 数年に一度は遊具専門業者による遊具点検（錆・腐食・破損・緩み・摩耗・ぐらつき）を実施すると良い。 2. トイレの掃除道具入りに掃除薬品が子どもの手の届く場所に保管されていた。誤飲等を防ぐため鍵付きの道具入れに保管する、子どもの手の届かない位置に保管するなど改善したほうが良い。 3. バス駐車場やバス送迎乗降時が園内での対応となっており、十分に配慮していることは確認できたが危険とも感じた。駐車場や乗降場を別に確保することは多くの資金も必要になるのですぐの対応は難しいと思うが、子どもの安全確保のためにさらなる工夫を望む。 4. 学校薬剤師の必置をすること。 「認定こども園法」第27条第1項（学校保健安全法の準用） 学校保健安全法第5条・第6条・第23条 		

③子育ての支援

	調査項目	確認結果
1	子どもの発達や学びが、小学校教育につながるように小学校との連携をはかったり、地域の関係機関や団体と連携をはかっている。	済・未
2	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取組を行っている。	済・未
<p>(コメント)</p> <p>子育て支援のための部屋も整備され、必要とする親子が気軽に利用できるよう配慮されていて、地域の乳幼児教育センターとしての役割を担っていることが確認できた。今回の公開保育に保護者代表の方が参加されていた。代表の方との聞き取りでも、園児の成長から保護者の意識や支援などにつながっていることを聞き取れた。</p> <p>徳力団地という地域と密着した活動等を行い、地域の方との交流から子育て支援へとつながっていた。</p>		

第三者評価確認書類リスト

- 赤字は第三者評価当日に確認する書類です。
 ○黒字は都道府県・市区町村の指導監査報告結果（立ち入り調査結果・口頭指導事項）の写しを添付することで確認したこととみなします。

1. 運営

書類リスト	確認	書類確認事項（関係諸官庁提出日等）
法人理事・監事・評議員名簿	○	原簿で確認
理事会議事録	○	原簿で確認
運営規定（園則）	○	原簿で確認 第6 緊急時における対応方法及び非常災害対策 第7 章 虐待防止のための処置に関する事項
重要事項説明書・同意書	○	同意書原簿確認
認定こども園許可証	○	原簿で確認
施設設備の基準適合がわかる書類	○	原簿で確認
就業規則	○	原簿で確認 R2 若干の改訂がある
園児出席簿	○	原簿で確認
秘密保持について	○	重要事項説明書・就業規則個人情報取扱規程
事務分掌表	○	原簿で確認
辞令（中核リーダー・職務分野別リーダー等）	○	原簿で確認
職員出勤簿（タイムカード等）	○	原簿で確認
寄附行為	○	原簿で確認
都道府県・市区町村の指導監査報告結果	無	都道府県・市区町村の指導監査報告結果の写しを添付すること 北九州市からの指導監査実施無し。北九州市からの立ち入り調査結果・口頭指導事項がないので黒字部分も全て確認した。
施設名 事業開始年月日 施設所在地 施設長名 設置主体 施設認可年月日 認可定員 利用定員 歳児別現員が分かる書類	○	すべて原簿で確認
会計管理 当年度の決算・予算書 公認会計士（契約書・監査日・監査報告書） 諸官庁への提出日	○	すべて原簿にて確認 契約日 R5.4.1～R6.3.31
職員に関する諸記録 労働契約書 給与規定 健康保険 厚生年金保険	○	すべて原簿にて確認

雇用保険 等		
事業計画 前年度事業報告	○	原簿で確認

2. 土地建物の状況

書類リスト	確認	書類確認事項（関係諸官庁提出日等）
配置図及び平面図 施設の面積・構造 保育室・遊戯室名称及び 面積を記入 消火器設置場所	○	原簿で確認
園庭の面積が分かる書類	○	原簿で確認
借校舎・借校地の契約書		無し

3. 職員の状況

書類リスト	確認	書類確認事項（関係諸官庁提出日等）
免許状の写し 幼稚園教諭一種・二種免許状 保育士証 子育て支援員研修修了証書 看護師免許証 管理栄養士免許証 栄養士免許証 調理師 等	○	原簿で確認
保育時間が分かる書類	○	園則・重要事項説明書
職員の勤務状況が分かる書類 ローテーション表など	○	原簿で確認
職員健康診断記録	○	原簿で確認
常勤・非常勤人数 有資格者（保育教諭 幼稚園教諭 保育士 看護師 栄養士 調理師 事務員など）内訳	○	原簿で確認

4. 保育の状況

書類リスト	確認	書類確認事項（関係諸官庁提出日等）
組編成が分かる書類 組 年齢 1・2・3号児童数 担当職員	○	原簿で確認
教育及び保育の内容並びに子育て支援等に関する 全体的な計画	○	○幼保連携型認定こども園における全体的計画 満3歳以上の園児の教育課程に係る教育時間の教育活動のための計画・満3歳以上の保育を必要とする子どもに該当する園児の保育のための計画・満3歳未満の保育を必要とする子どもに該当する園児の保育のための計画・学校安全計画・学校保健計画・食育の計画等を含む ○幼稚園における全体的な計画 教育過程を中心に・学校保健計画・学校安全計画を関連させ、一体的に教育活動が展開されるよう全体的計画を作成する
長期・短期指導計画	○	原簿で確認
指導要録	○	原簿で確認

園児票（幼児調査票・園児の健康診断票・身体測定）	○	原簿で確認
保育者等の研修状況や内容が分かる書類 研修ハンドブック、研修履歴、研修レポートなど	○	原簿で確認
子育て支援に関する記録	○	原簿で確認
園の自己評価の状況がわかるもの	○	原簿で確認
学校関係者評価	○	原簿で確認
保護者への情報提供 園便り・クラス便り・ラーニングストーリー・ポートフォリオ・ドキュメンテーション・面談・連絡交換ノートなど	○	原簿・ICTで確認

5. 安全・危機管理に関するもの

書類リスト	確認	書類確認事項（関係諸官庁提出日等）
事故報告書 ヒヤリハットシート等リスクを軽減するための取組が分かるもの	○	原簿で確認
損害賠償責任保険の証書（写し）	○	原簿で確認
加盟保険（日本スポーツ振興センターなど）	○	原簿で確認
学校薬剤師検査記録 教室二酸化炭素検査 水質検査		R5まで市からの指導はない、必置説明 R6から実施予定
消防点検・遊具点検などの書類	○	業者点検
避難訓練 実施計画 消防通知訓練の状況等	○	通報訓練 毎月している
危機管理マニュアル（防災・防犯計画） （地震・火災・津波・風水害・防犯・バス運行 等）	○	原簿で確認
バス運行・乗車降車のマニュアル	○	原簿で確認
バス運転手免許証 アルコールチェック記録表	○	原簿で確認
園保有車 任意保険 車検証 等	○	原簿で確認

6. その他

書類リスト	確認	書類確認事項（関係諸官庁提出日等）
園のパフレット	○	原簿で確認
各種料金設定が分かる書類 入園料 特定負担金 市町村利用料 その他費用	○	原簿で確認
給食 献立表・月カロリー計算書・アレルギー対応等 調理室衛生管理書類 等	○	原簿で確認 アレルギー個別にファイル作成

第三者評価結果(詳細)

A 教育保育

① 子どもの人権、安全と健康

✓□1. 一人一人の子どもの家庭環境や人種、文化等の違いを知り、異なる意見や価値観を認めあう心を育てよう努めている。

(1)一人一人の子どもの家庭環境や人種、文化等の違いを個別の記録(データベース)を作成し適切に管理し、園全体で統一的に共有されている。

(コメント)子どもの人権、文化の違い、互いに尊重する心について、その方針等を保護者に示すとともに、保護者も理解する取り組みを行っていた。子ども理解のための個別の記録を作成し適切に管理されて保育者に周知されていた。

(2)子ども同士の話合いや関わりにおいて、異なる意見や少数の意見を大事にする姿勢を保育者と子どもが持っている。

(コメント)応答的保育の姿が随所で見られる。

(3)子どもから発信される様々な意見や考えに対して、まず受容する態度を保育者が持っている。

(コメント)子どもとの親密なかかわりが、受容する保育者として顕著にあらわれている。

✓□2. 子どもや保護者、同僚を傷つけるような差別的な言葉や態度をしていない。

(1)子どもや保護者、同僚の言葉や態度に対して、相手の思いを無視して頭ごなしの否定や批難批判の言葉や態度を表すことがない。

(コメント)

(2)身体的にも言語的にも、暴力あるいは暴力に類する行為が無い。

(コメント)

✓□3. 身体、性、年齢、発達之差等、生来的な差によって子どもに不当な不利益を与えるような言動やシステムがない。

(1) 生来的な差を捉えて、固定的な価値を押しつけたり、断定的な評価を下したりすることがない。

(コメント)さまざまな活動を通して子どもの主体性が尊重されていることがわかる。

(2)子どもの羞恥心に配慮した環境の構成や関わりをしている。

(コメント)

(3)特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育にあたっては、他の子どもとの生活や遊びの中で、共に成長できるように援助している。

(コメント)

✓□4. 園庭の環境(空間と遊具)や室内の環境(家具や動線)の安全性を、保育の中で注意・改善する視点がある。

(1) 子どもが主体的に周囲の人やものに働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。

(コメント)クラス配置や空間を利用し、子どもたちが周囲の人や物に関われる環境を構成していた。

(2)子どもが遊具や教材をどんな使い方をするか、どのような使い方が危険を伴うかを予測して共有している。

(コメント)空間や遊具の使い方など子どもにわかりやすく提示していた。

(3)子ども自身が、遊具や教材の安全な使い方や遊び方について気づくことができるように配慮している。

(コメント)

<p>✓□5. 子どもの成長や食べる意欲が大事にされた食育(食べることの全ての営み)がなされている。</p> <p>(1)子どもが楽しく、落ち着いて食事ができるような雰囲気づくりに配慮している。 (コメント)</p> <p>(2)メニューや味付けが子どもの発育や健康に配慮されている。 (コメント)園独自の給食の施設があり、子どもたちの食育を進めていく基盤が整っている。</p> <p>(3)子どもの体調やアレルギー、食文化に応じた食事を個別に提供している。 (コメント)子どもの体調やアレルギーに応じた食事を個別に提供していた。</p> <p>(4)食についての関心が持てるような栽培や調理体験等の取組をしている。 (コメント)</p> <p>(5)保護者に園での食育活動を伝えている。 (コメント)献立表をわかりやすく作成し事前に配布している。</p>
<p>✓□6. 園生活に必要な一つ一つの生活習慣が、保育社と子どもに、共に大切に扱われている。</p> <p>(1)基本的な生活習慣の大切さを伝え、子どもが無理なく身に付けられるような援助をしている。 (コメント)</p> <p>(2)家庭生活と園生活との連続性を意識した配慮がなされている。 (コメント)日々のコミュニケーションにより、日常的な情報交換を行い家庭での生活を把握するよう努めていた。</p> <p>(3)子どもの月齢や個性、家庭環境、生育歴などを考慮した関わりを通して、一人一人に応じた生活習慣が身につくように配慮している。 (コメント)子どもの月齢や個性、家庭環境、生育歴などを考慮した関わりを通して、一人一人に応じた生活習慣が身につくように配慮していた。</p>
<p>✓□7. 全ての子どもが「いる」だけで認められる、心理的な安全・安心が子ども集団(学級)のなかにある。</p> <p>(1)「できる」「できない」に偏った評価ではなく、子どもの心情や意欲を大切に読み取ろうとする態度が保育者にある。 (コメント)教育計画や保育のふり返り等を見ても心情、意欲の発達を大事にしていることが確認できた。</p> <p>(2)むやみに制止や禁止や否定、決め付けをせず、子どもからの発信をありのままに受け止めようとしている。 (コメント)</p> <p>(3)一人一人の子どもに応じた心の通う応答を通して、子どもの良さや育とうとする方向を知ろうとしている。 (コメント)一人一人の子どもに応じた心の通う応答を通して、子どもの良さや育とうとする方向を知ろうとしている。</p>
<p>✓□8. 園生活の中で、大切にしたい信心(特定の宗教を含む)が自然と教育・保育に融けこみ、子どもたちに愛情や感謝の気持ちが育っている。</p> <p>(1)生きる上で大切にしている拠り所を共有することによって、子どもの心に安定感が生まれ、生命に対して愛情を持ったり、他者に対して思いやりや感謝の気持ちを表現したりする姿がある。 (コメント)</p> <p>(2)園生活の中で大切にしていることについて、保護者にもわかりやすく伝え、その価値観を保育者と保護者が理解しあえるよう努めている。 (コメント)</p>

②保育者等の資質向上・研修	
✓□1. 豊かな人間性を備えた保育者になることを、園として大切に考え支援している。	
(1) 社会的活動への参加や異文化への出会いの機会を通して、視野を広げることを推奨している。	
(コメント) 子どもたちの壁新聞などの制作で、社会への関心や異文化への出会いが広がっている。	
(2) 芸術・文化に触れる機会を通して、感性を磨くよう促している。	
(コメント)	
(3) 教育、福祉に関する話題や、政治、社会、世界情勢等の時事問題にも関心を払うよう伝えている。	
(コメント)	
(4) 自分を律し、他人と協調し、他人を思いやる心を大切にしようという風土ができている。	
(コメント) 子どもたちの豊かな人間性を育むためには、保育者自身が豊かな人間性を備えていなければならないことを、教職員間で課題として共有できていた。	
✓□2. 保育者の資質向上のためには、遊びと生活の専門性を高めることが必要であるという共通理解のもとに、教育・保育が行われている。	
(1) 自然や生き物と触れ合う機会を持ち、自らの実体験を積極的に豊かなものにするを大切にしている。	
(コメント)	
(2) 絵画・造形・音楽・運動等、自らの得意分野を持ち、実践に活かすことができている。	
(コメント)	
(3) 遊びを工夫し、創り出し、提案することができる。	
(コメント) 日々の実践や研修などから、子どもたちが自ら工夫し作り出す環境を準備していた。	
✓□3. 自園の教育・保育理念を十分に理解し、日々の実践に活かしている。	
(1) 保育者等一人一人が、自園の教育・保育理念を理解している。	
(コメント) 教職員が、自園の教育・保育理念を理解できるような機会や仕組みがあった。	
(2) 保育者集団として、自園の教育・保育理念を共通理解できている。	
(コメント) 教育課程および指導計画に、教育・保育理念が反映されていた。	
(3) 自園の教育・保育理念を基に教育課程が編成され、日々実践されている。	
(コメント) 教育課程および指導計画に、教育・保育理念が反映されていた。	
✓□4. 公開保育を通して、教育・保育の質を高める取組ができている。	
(1) 自園で互いの実践を見合い、学びを深める機会を作っている。	
(コメント)	
(2) 自園の実践を他園に公開したり、他園の公開保育に参加する機会がある。	
(コメント)	
(3) 公開保育のプロセスを通して、園の良さや課題に気づき、改善の方向性を保育者間で共有できるように取り組んでいる。	
(コメント) 公開保育のプロセスにおいて、園の良さや課題、改善の方向性が明確になるような園内研修の場が設定されていた。	
✓□5. 職場における同僚性の向上を意識し、保育者集団としての力量を高めようとしている。	
(1) 保育者同士のコミュニケーションが円滑で、気兼ねなく相談や質問ができる関係性ができている。	
(コメント) 保育者同志の関係性が深い	
(2) リーダー的立場にある者は、保育者等に対する適切な指導や助言、園内研修の運営等を行い、その役割を果たしている。	
(コメント)	
(3) 普段から、教育・保育の在り方や子どもの姿について、語り合う風土ができている。	
(コメント) 園内研修等の場だけでなく、教職員同士が、普段から教育・保育や子どもの育ちについて語り合う姿が見られた。	

<p>✓□6. 保育者等一人一人が社会人としての自覚をもち、その役割を果たすことができるように、組織的な取組をしている。</p> <p>(1)モラル・ルール・マナーを身に付ける機会を確保し、社会人としての自覚を持って教育・保育に従事できるようにしている。</p> <p>(コメント)</p> <p>(2)組織の一員として期待される役割を果たすために、仕事の目的や目標を明確化するように促している。</p> <p>(コメント)教職員が、目的や目標を明確にして仕事に取り組めるような仕組みづくりができていた。</p> <p>(3)組織の活性化や仕事の効率化について、積極的に考え取り組んでいる。</p> <p>(コメント)組織の活性化や仕事の効率化に関して、具体的な方策を模索していた。</p>
<p>✓□7. 子どもとかかわることを喜び、子どもの遊びが豊かに展開されるような教育・保育をしている。</p> <p>(1)子どもに愛情豊かに関わり、子どもの心を受け止め寄り添いながら教育・保育をしている。</p> <p>(コメント)子どもの心に寄り添いながら教育・保育をしていた。</p> <p>(2)子どもの主体的な活動を大切にしながら、子どもの共同生活者として遊びや生活を共に楽しむ意識を持っている。</p> <p>(コメント)子どもの主体的な活動を大切に、遊びや生活を共に楽しむ意識を持っていた。</p> <p>(3)子どもの育ちを、保育者同士や保護者と喜び合うことができている。</p> <p>(コメント)保護者の会会長と話す機会があり、聞き取りの中から子どもの育ちを保育者同士や保護者と喜び合うことができていた。</p>
<p>✓□8. 保育者等一人一人が向上心を持って、研修など様々な学びの機会を得ようとする風土が園としてできている。</p> <p>(1)園内研修では、教育・保育の在り方や子どもの姿について活発な意見交換が行われ、良さや課題が共有されている。</p> <p>(コメント)園内研修の記録、および園内研修の手法や内容について確認し、教職員で良さや課題が共有されていた。</p> <p>(2)園外の様々な研修に積極的に参加し、専門性を高めている。</p> <p>(コメント)</p> <p>(3)研修の参加履歴を研修ハンドブック等に残し、計画的かつ意欲的に研修に参加できるようにしている。</p> <p>(コメント)研修の参加履歴を研修ハンドブック等に残し、計画的かつ意欲的に研修に参加できるようにしている。</p> <p>(4)保育者等一人一人が、保育者として成長し続けようという意識を持ち続け、専門性の向上に真摯に取り組む風土が園として醸成されている。</p> <p>(コメント)専門性の向上のため、教職員が成長し続けようという意識を持って主体的に研修に臨んでいた。</p>

③教育・保育における実践

1) 子ども理解

✓□1. 乳幼児期の発達の過程を踏まえながら、一人ひとりの子どもの内面的な心情や意欲をくみ取り、様々な力を培っている姿を保育者全体が理解しようとする風土を持っている。

(1)園の子ども一人一人の名前と顔を知り、上下関係など人間関係に左右されずに、それぞれの子どもについて、遊びの様子やエピソードなど日常的に語り合っている。

(コメント)園や教職員の同僚性について確認し、日常的に子どもの遊びの様子やエピソードについて語り合っている様子がうかがえた。

(2)子ども一人一人のありのままの姿を受け入れ、子どもの気持ちに共感しながら、子どもと対等な関係で一緒に遊び、今、何に興味や関心を持っているか子どもの内面的な理解に努めていた。

(コメント)子どもの気持ちに寄り添い、内面的な理解に努めていた。

(3)0歳児からの子どもの発達の過程についての文献、研究書、保育雑誌などを園内に所蔵し、保育者に乳幼児期の発達や学びについての最新の知見に触れるように配慮している。

(コメント)園長自ら学びを深め、最新の知見を地域の現状に合わせ取り入れ教職員とも共有していることが確認できた。

✓□2. 子どもの姿や育ち、実践について様々な手法(日誌、環境図、エピソード、写真、動画等)を用いて記録し、一人一人の子ども理解に努めている。

(1)子どもの姿を日誌、環境図やエピソード記録等を取りながら、子ども理解を多角的に行っている。

(コメント)保育のポスター発表なども工夫されておこなっている。

(2)画像等を活用して子どもの内面的な理解や興味関心を読み取ろうとしている。

(コメント)

(3)子どものみとりとその内面理解について研修・研究を行っている。

(コメント)研修履歴により、子どものみとりについて内面的な理解を図ろうとしていた。

✓□3. 子どもの記録を園内での振り返りや園内研修等に活用し、子ども理解の共有を保育者間で図り、必要な援助を考え環境の構成を見直したり、保育の計画に活用している。

(1)園の体制として、子ども理解の共有を図る場(職員会議、朝礼、終礼、園内研修等)を定期的に設けている。

(コメント)

(2)チーム保育を実践し子ども理解の面での職員間の連携を図っている。

(コメント)チーム保育を実践し子ども理解の面での職員間の連携を図っている。

(3)子どものこれまでの姿、今の姿から、これからの活動の姿を予想することができ、一人一人に応じたねらい(方向目標)を持ち、必要な環境の構成、手立てを組み立てている。

(コメント)指導計画は子ども理解に基づく子どもの姿をベースに組み立てられていた。

(4)子どもの姿や指導計画が園全体で共有されるような体制(「見える化」等)を持っている。

(コメント)指導計画は遊びや活動の意味を整理して作成されていた。

✓□4. 遊びや活動の意味についてそれが子どもの成長とどう関連しているのか?記録を通じて理解し、実践に繋げようとしている。

(1)遊びや活動での子どもの様子から、その遊びや活動が持つ学びや意味を子どもの発達に照らし合わせて整理している。

(コメント)

(2)遊びや活動の中で子どもの話をよく聞き、子どもの視線やサインなどの様々な行動から子どもの考えを受け止め、子ども同士の関わりの中でその姿の内にある心の動きについて推察し記録するように心掛けている。

(コメント)記録類に内面的理解への記載がされていることを確認できた。

(3)乳幼児期のそれぞれの節目を発達に照らし、また一人一人の育ちの姿を考慮に入れながら、変わりゆく子どもの姿から指導計画を見直し、意味のある遊びや活動を教育・保育の計画に柔軟に組

	み入れている。
	(コメント) 指導計画や保育計画が子どもの姿に応じて柔軟に見直されていた。
✓□5.	園での子どもの育ちを保護者と共有しようと心掛け、家庭環境や家庭での育ちの状況も考慮しながら、子ども理解の幅を広げようと努めている。
	(1) 個人面談や懇談会、家庭訪問等を実施するなど、子どもの家庭環境を含めて子ども理解に努め、子どもの育ちを保護者とも共有する機会がある。
	(コメント) 個人面談や懇談会が実施され、子どもの育ちを保護者と共有する機会があった。
	(2) 連絡ノートやお便り、ポートフォリオ等を通じて子どもの育ちを保護者に分かりやすく伝えるようにしている。
	(コメント) ICT を活用し子どもの様子を写真等で伝えていた。
	(3) 子どもの姿を具体的に見て体感する機会(参観、保護者参画企画、「一日先生」、ボランティア、保護者会活動等)を設けている。
	(コメント) 保育参観等で子どもの姿を実際に見て理解する場を作っていた。
	(4) 保護者がほかの子どもの育ち、学級全体から見た子どもの育ちを語り合う場を園は設けている。
	(コメント) 懇談会などを通じて我が子だけでなく子どもの育ちを語り合う場を設けていた。
✓□6.	特別な配慮を必要とする子ども一人一人の理解に努め、その子に応じた個別の指導計画を作成し、必要な援助を組織的、計画的に実践につなげている。
	(1) 特別な配慮が必要な子どもを受入れ、健常児と共に育つ場を用意している。
	(コメント) 園の状況の範囲で特別な配慮を要する子どもが健常児と共に育つ環境が整っていた。
	(2) 園の体制として、特別支援教育コーディネーターを置いている。
	(コメント) 職務分掌で教職員の特別支援教育コーディネーターに位置付けられていた。
	(3) 特別な配慮を必要とする子ども一人一人の育ち、伸びようとする姿の理解に基づく個別の指導計画を作成している。
	(コメント) 個別の教育支援計画を作成し、家庭とも連携していた。
	(4) 特別支援をテーマにしたケース会議や園内研修等を行い、個別指導計画をその子どもの姿に応じて、柔軟に組み替え、組織的、計画的な援助の在り方を園全体として考えている。
	(コメント) 子どもの姿に応じた個別指導計画を作成していた。
	(5) 特別支援教育の園外研修へ保育者を派遣している。
	(コメント)
✓□7.	特別な配慮を必要とする子どもの家庭や専門機関、小学校等とも連携しながら、家庭支援や引継ぎ等における特別支援教育の幅広い環境整備を心掛け、多面的なアプローチで子ども理解を図っている。
	(1) 療育機関とも連携を持ち、あるいは巡回相談などの際に、専門機関の先生と面談しながら子ども理解の幅を広げている。
	(コメント)
	(2) 保護者の相談に応え、また保護者へのピアサポート(同じような立場のある人によるサポート)等を行い、保護者の心情をくみ取りながら特別支援の子ども特有の育ちの理解に努めている。
	(コメント) いつでも相談できるように配慮し、保護者をサポートする体制があった。
	(3) 療育機関での様子や知見、家庭での姿などを加味した個別の教育支援計画を作成している。
	(コメント) 個別の教育支援計画を作成し、家庭と共有していた。
	(4) 指導要録だけでなく、特別な配慮が必要な子どもの育ちの「引き継ぎ資料」を整理して、小学校との引継ぎを行っている。
	(コメント)
	(5) 特別な配慮が必要な子どもが定型発達の子どものと共に育つ意義を一般の保護者に伝えたり、多様な保護者同士が相互理解できる場や機会を設けたりするなど、インクルーシブ教育の実際の様子を発信し、共生社会に向けた社会貢献に努めている。

	(コメント)多様な保護者同士が相互理解できる場を設けていた。
2)教育・保育の計画	
□1. 幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画は、子どもの発達の姿から、自園の教育・保育理念と、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成している。	
	(1)教育課程を作成している。
	(コメント)
	(2)指導計画を作成している。
	(コメント)
	(3)自園の教育課程と指導計画は、活動内容の記述に偏らず、自園の子どもの発達の姿に即し長期(3年間)の発達の姿を見通して作成されている。
	(コメント)自園の子どもの発達の姿に即し発達の姿を見通して作成されていた。
	(4)自園の教育課程と指導計画は、自園の教育・保育理念に即して作成されている。
	(コメント)自園の教育・保育理念に即して作成されていた。
	(5)自園の教育課程と指導計画は、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に即して作成されている。
	(コメント)幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を理解し園の実情を鑑み作成されていた。
✓□2. 子どもの発達の過程や発達の連続性を見据え、各園の教育・保育の理念や目標に基づいた保育計画によって実践を展開するために月案や週案等を作成して、実践につなげている。	
	(1)月案、週案、日案(週日案等を含む)を作成している。
	(コメント)
	(2)指導計画、月案、週案、日案は相互につながりを持ちながら作成されている。
	(コメント)指導計画、月案、週案、日案は相互につながりを持ちながら作成されていた。
	(3)週案、日案(週日案を含む)で計画されたことは実際の環境として構成されている。
	(コメント)
	(4)週案、日案(週日案を含む)で計画されたことは、実践の振り返りを基に、翌日、翌週の実践へとつながっている。
	(コメント)月案・週日案で実践の振り返りが行われていた。
✓□3. 日々の実践を振り返り評価し、明日の実践に反映し、教育・保育の質が向上するように計画を見直ししている	
	(1)自園の教育課程と指導計画は、期や年毎に振り返って見直している。
	(コメント)
	(2)自園の教育課程と指導計画の振り返りは、保育者が参加して行われ、見直している。
	(コメント)自園の教育課程と指導計画の振り返りは教職員が参加していた。
	(3)自園の教育課程と指導計画を振り返る際に、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参考としている。
	(コメント)振り返りに幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を参考にしていた。
✓□4. 個別に対応する必要がある場合については、個別の指導計画を作成している。	
	(1)0. 1. 2歳児における個別の指導計画が作成されている。
	(コメント)
	(2)特別な配慮を必要とする子どもについては、個別の指導計画が作成されている。
	(コメント)
✓□5. 保護者の理解と支援の下に実践ができるように幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程は、保護者等に開示されている。	
	(1)自園の教育課程と指導計画は、保護者など一般に開示されている。

	(コメント)自園の教育課程や指導計画は保護者など一般に開示されていた。
✓□6.	幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の理解が深まる仕組みがある。
	(1) 幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領は、保育者各自が所持するか、保育者の目に届くところに開架されている。
	(コメント)
	(2)新規採用教員研修等の参考資料として、あるいは、年度当初等の園内研修では、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の全体的な計画における教育課程に触れて情報を共有している。
	(コメント)幼稚園教育要領は教員の目の届くところに開架し、全職員が全体的な計画を理解し情報を共有していた。
✓□7.	計画は実践につながりながら、気候やその日の子どもの状態等に即して柔軟な対応がなされている。
	(1)決まった日課はあるが、柔軟性もある。(天気が良ければ外遊びを多くする)
	(コメント)
	(2)基本的な生活は子どもになじみのあるものとなっている。
	(コメント)週日案を確認し、基本的な生活は子どもになじみのあるものとなっていた。
	(3)計画には、室内や園庭での活動がバランス良く配置されている。
	(コメント)日案を確認し、計画には室内や園庭での活動がバランスよく配置されていた。
	(4)計画には、体を動かす遊びと、静かな活動の両方がある。
	(コメント)
3)環境の構成	
<園舎空間について>	
✓□1.	子どもたちが遊び込むことができる時間の配慮、自由な遊びコーナーなど、子どもの自主性・自発性を尊重すると共に、子ども同士の関わりや遊びが豊かに行われる空間環境が工夫されている。
	(1)子どもたちが十分に遊び込める時間が設定されている。
	(コメント)
	(2)遊びの空間が互いの妨げにならないよう設定されている。
	(コメント)園内環境を見渡し、園舎の空間が工夫されていた。
	(3)園庭や室内に3つ以上の活動センター(コーナーやゾーン)がある。
	(コメント)
	(4)子どもが数人で遊ぶことができる程度の、子どもが数人だけで遊ぶことができる空間がある。
	(コメント)
	(5)子どもが主体的に動ける導線が工夫され、他の子どもの遊び活動が見える開放性が園空間において配慮されている。
	(コメント)園内環境を見渡し、子どもの遊びが継続的に行われる環境や、見渡せる園舎の空間が工夫されていた。
	(6)子どもたちが自分で遊びの空間を作り変えたりできるよう工夫されている。
	(コメント)子どもたちが自分で遊びの空間を作り変えたりできるよう工夫されていた。
<遊具・家具・絵本・廃材などについて>	
✓□2.	子どもの成長に合わせた遊具や絵本が、子どもの手の届く場所に適切な量で用意され、子どもが自由に選び、興味をもって関わり、考えたり、試したりして工夫して遊びを展開できるよう配慮されている。
	(1)室内に子どもがイメージを広げて遊ぶことができる遊具などがある。
	(コメント)
	(2)身近なある物を利用し、作ったり、見立てたり、見立てたものを伝えあったりする場がある。
	(コメント)
	(3)成長に合わせた絵本が子どもの手に取れる位置に適切な冊数がある。

(コメント)絵本の種類や冊数が適切であった。
(4)子どもが使える柔らかい園具及び教具など適切な環境が準備されている。
(コメント)適切な環境が準備されていた。
(5)ごっこ遊びの衣装やイメージを広げるそのほかの遊具や工夫できる廃材などがある。
(コメント)遊びのイメージを広げる遊具や廃材などがあった。

<園庭について>

✓□3. 外気に触れ、自然を感じ、興味を持って自ら移動、探索する楽しさを存分に味わい、体を動かす楽しさを味わうことができ、かつ、子どもが安心して遊べる安全面に配慮された園庭等が確保されている。

(1)園庭に砂や水で遊べる環境がある。
(コメント)砂場やその周りでも個々の遊びを楽しめるよう環境が工夫されていた
(2)樹木や果実、植え込み、植栽、花壇などがあり、自然に触れられる園
(コメント)
(3)自然などの身近な事象に気付くような本や写真、そのほかの視覚教材があり子どもの直接体験を 発展させるような環境が準備されている。
(コメント)自然や身近な事象に気付き、子どもの発達に合わせ気付きを調べたり形にしたりする環境 だった。
(4)天候について話したり、動植物を観察したり、季節の移り変わりなどを感じられ、自然や人間の生 活に変化があることに気付くことができる環境がある。
(コメント)
(5)多様な技能を育てる遊具や異なった技能を育てる設備や備品がある。
(コメント)子どもたちが挑戦する気持ちを持ち、技能を育てたり工夫したりする遊具や遊具がある。
(6)粗大運動遊具の設備・備品は手入れが行き届き、大型固定遊具などの下には緩衝材などがある。
(コメント)

<動植物の飼育、栽培について>

✓□4. 身近な動植物に親しみをもち、接し、飼育や栽培を経験することで生命の尊さに気付き、いたわったり、大切にしたりする環境が確保されている。

(1)動植物に親しみをもち、かわれる環境が確保されている。
(コメント)
(2)自ら興味を持って飼育栽培できる道具などが準備されている。
(コメント)

<表現活動について>

✓□5. 多様な表現活動を経験でき、自ら興味を持って関わり楽しめる工夫や継続して活動できるような環境の構成がされている。

(1)子どもが取り出して使える楽器がある。(簡単な楽器・音楽プレーヤー・ダンスの小道具など)
(コメント)子どもたちが音や音楽で十分に遊び込める環境や、表現できる環境があった。
(2)いろいろな材料(教材・廃材)を用いて子どもの個性が表現できる空間がある。
(コメント)
(3)子どもの発想や考えが形にできたり工夫できたりする環境がある。
(コメント)子どもの考えや発見を表現できる材料が準備されていた。

<数量・図形・文字標識などの環境について>

✓□6. 数量や図形、文字や標識に自然に触れ合えるような環境が工夫されている。

(1)数えたり比べたり測ったりなどして形や大きさを感じられる遊びや環境がある。
(コメント)生活の中で様々な数・量・形に接する工夫ができていた。
(2)文字や標識に自然に触れ興味や関心を持てる工夫がなされている。
(コメント)

<衛生管理について>

✓□7. 施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレ等の清潔が保たれ、子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。また、自分の健康に関心が持てる工夫や、病気予防のための配慮がされている。

(1)施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレなどの清潔が保たれている。

(コメント)施設内の清掃が行き届いており、保育室・トイレなどの清潔が保たれていた。

(2)子どもたちが使用する備品類の消毒が行われている。

(コメント)子どもたちが使用する備品類の消毒が行われていた。

(3)保育室の気温・湿度・採光・換気に配慮されている。

(コメント)

(4)健康に関する本や写真などを利用し、自ら健康に関心が持てる工夫がされている。

(コメント)健康に関する本や写真・掲示物などを利用し、自ら健康に関心が持てる工夫がされていた。

(5)手洗いうがいを促す図表などが掲示されている。

(コメント)

<メンテナンスについて>

✓□8. 手洗い場や机・椅子等、子どもの身体にあった大きさで整えられ修繕されている。

(1)子どもが手洗いしやすい環境、子どもが活動しやすい高さの椅子机などの備品が整っている

(コメント)

(2)椅子やテーブル、家具など定期的に確認し、傷んだり破損したりしている物は適宜修理改善している。

(コメント)保育環境をチェックすることで安全管理の徹底を行っていた。また、適宜修理改善している。

4)実践

✓□1. 乳幼児期にふさわしい生活が展開されている。

(1)子どもが保育者を信頼し、自分が受け入れられ見守られているという安心感を持って生活できるような配慮をしている。

(コメント)子どもたちが活動などに安心して取り組む姿が見られた。

(2)興味や関心に基づいた直接的、具体的な体験の積み重ねを大切にした教育・保育が行われている。

(コメント)

(3)子どもが友達と十分にかかわって生活できるような配慮をしている。

(コメント)子どもが友達と十分にかかわり、意見を出し合いながら互いに刺激し合い、様々なものや事柄に取り組めるような援助をしていた。

(4)子どもの発達の過程に応じて、適切な運動と休息をとることができるようにしている。

(コメント)

(5)在園時間の異なる子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている。

(コメント)教育課程修了後の保育については、子どもの発達の過程や生活のリズム、心身の状態に十分配慮して行われていることが確認できた。

✓□2. 子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している。

(1)子どもが主体的に、遊び込める時間と空間を保障している。

(コメント)

(2)子どもが自分の目的を持って、考えたり、試したり、工夫したりする過程を大切にしている。

(コメント)主体的な遊びが展開でき、考えたり工夫したりするよう配慮されていた。

(3)子どもの主体的な活動を促すために、保育者が多様な関わりを持ち、様々な役割を果たすように努めている。

(コメント)保育者が子どもに寄り添い、共に考えたり作業をしたり遊びの援助をするなど、多様なかかわりを持つようしていた。

	<p>(4)子どもが周囲の自然に親しみを持ち、それらを生活や遊びに取り入れたり、生命を大切にする気持ちが養われたりするような援助をしている。</p> <p>(コメント)</p> <p>(5)子どもの発達の過程に応じて、協同して遊ぶ活動を取り入れ、友達同士が互いの存在を認め合い、一緒に遊ぶ楽しさや喜びが味わえるような援助をしている。</p> <p>(コメント)子どもが友達と協同して遊ぶ機会つくったり、子ども同士の関係が深まったりするような援助をしていた。</p>
	<p>✓□3. 遊びを通した総合的な指導を行っている。</p> <p>(1)子どもが主体的に環境にかかわって遊びを展開する中で、心身の発達にとって必要な経験が相互に関わりながら積み重ねられている。</p> <p>(コメント)活動の中で子どもがどのような経験をし、どのような能力や態度を身につけようとしているのかを捉え、指導や援助をしていた。</p> <p>(2)子どもが発達していく姿を様々な側面から総合的に捉え、指導している。</p> <p>(コメント)様々な活動の場面において、子どもの発達に必要な経験が得られるような状況をつくるようにしていた。</p>
	<p>✓□4. 子ども一人一人の特性や発達の過程に応じた指導をしている。</p> <p>(1)子ども一人一人の発達の過程や生活環境等を把握し、その子の発達の特性や発達の課題を理解して指導をしている。</p> <p>(コメント)</p> <p>(2)子どもが主体的に周囲の人や物に働きかけることができるよう、環境の構成を工夫している。</p> <p>(コメント)子どもがそれぞれの興味や関心に基づいて主体的に環境にかかわることができるよう、環境の構成がなされていた。</p> <p>(3)子ども一人一人が自分の思いや考えを出していく中で、互いの違いを認め合い、尊重し合う心が育つような援助をしている。</p> <p>(コメント)</p> <p>(4)特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の教育・保育に当たっては、ほかの子どもとの生活を通して共に成長できるように援助している。</p> <p>(コメント)特別な配慮が必要な子どもも同じ教室内で子どもたちや先生たちが配慮をしながら、生活を共にしていた。</p>
	<p>✓□5. 行事等を通して、園生活に変化や潤いを与えられるよう工夫している。</p> <p>(1)季節の行事や誕生会等を通して、子どもが季節感や文化などを体感できるようにしている。</p> <p>(コメント)行事や遊びを通して季節が感じられる遊びや、日本古来からある文化が体感できる環境がある。</p> <p>(2)子どもが行事に期待感を持ち、主体的に取り組んで、喜びや感動、達成感が味わえるような配慮をしている。</p> <p>(コメント)子どもたちと作り上げる行事があり、喜びや感動、達成感について配慮されていた。</p> <p>(3)園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加したりする等、子どもが地域の人々と交流し、社会に対する興味や関心を持つような機会を作っている。</p> <p>(コメント)地域とつながりができる関係を構築し、地域社会との交流ができる行事なども行っていることが確認できた。</p>
5) 記録・振り返り	<p>✓□1. 個人の記録や集団の記録、エピソード記録等、子どもの状態と園の方針や仕組み等の状況に応じて、必要な記録を適切に行っている。</p> <p>(1)必要な記録をとるための様式がある。</p> <p>(コメント)必要な記録をとるための様式があった。</p> <p>(2) 管理者の確認や保育者同士の読み合い等、継続して記録に取り組む仕組みがある。</p>

	(コメント)記録を基に教職員の話し合いを行い、継続して記録に取り組んでいた。
	(3)記録方法の効率化や記録時間の確保等、園として記録を継続しやすい工夫をしている。
	(コメント)子どもの主体的な学びが反映されていた。
	(4)画像や記述等、様々な方法を活用して、子どもの育ちの過程が見える記録方法を工夫している。
	(コメント)様々な方法を活用して、子どもの育ちの過程が見える記録が行われていた。
	(5)観点の共有等により、記録に子どもの主体的な学びが反映されている。
	(コメント)
	✓□2. 記録を客観的に振り返ったり、保育者間で話し合ったりして、次の教育・保育の計画に活かしている。
	(1)ねらいに応じた環境の構成等、子どもの実態を踏まえた振り返り(評価)の観点がある。
	(コメント)子どもの実態を踏まえた振り返りの観点があった。
	(2)毎日または毎週等、日常の実践に活かす上で適切な頻度で振り返りを行っている。
	(コメント)日常の実践を活かす上で定期的に振り返りが行われていた。
	(3)振り返りを踏まえて、日案・週案等の計画を立てている。
	(コメント)記録を活かし、日案・週案において、振り返りを踏まえた計画が立てられていた。
	✓□3. 適宜、実践の振り返りと評価をする機会がある。
	(1)特定のケースを取り上げる等、園の実態からテーマを設けた話し合いを適宜行っている。
	(コメント)
	(2)子どもが主体的に取り組んでいるか等、子どもを中心にした視点で行事の見直しを行っている。
	(コメント)子どもの姿に合わせた行事の在り方を考える柔軟的な行事運営がされている。
	✓□4. 情報共有ができる同僚性の豊かな保育者集団の中で、園としての評価結果の共有や課題発見が行われ、計画・実践に適切に反映されている。
	(1)意見の視覚化やICTの活用等、情報共有しやすい工夫がある。
	(コメント)ICTを積極的に活用していた。
	(2)付箋の活用等、話し合いの中で多様な意見を出しやすい工夫がある。
	(コメント)
	(3)適宜、園としての評価結果や課題が明確にされて、全職員で共有されている。
	(コメント)園の課題が「見える化」され、全職員で共有されていた。
	(4)園の評価結果や課題が、幼稚園ないし幼保連携型認定こども園の全体的な計画における教育課程と指導計画に反映されている。
	(コメント)園の課題等が園全体で共有され、全体的な計画における教育課程と指導計画に反映されていた。
	✓□5. 園内で共有された子どもの育ちや実践の過程、または評価結果について、保護者や地域社会等の園外に向けて適切に発信し、共有していく努力をしている。
	(1)ポートフォリオ等、子どもの一人一人の育ちを継続的に記録した伝達ツールがある。
	(コメント)
	(2)掲示お便り等で、実践の過程を保護者に発信している。
	(コメント)ICTや掲示、お便り等で、実践の過程を保護者に発信していた。
	(3)ホームページ等で教育・保育の評価結果及び取組を公表している。
	(コメント)ホームページで取組みを公表していた。
	(4)地域行事等を通して、教育・保育活動を地域社会に発信する機会がある。
	(コメント)地域との交流を大切にし、地域社会に教育活動を発信していた。
	(5)保護者や地域の人々と共同して、教育・保育活動を行っていた
	(コメント)保護者や地域の人々と共同して、教育・保育活動を行う機会がある。
	✓□6. 園内での記録の管理や外部と情報のやり取りをする際について、子どものプライバシー保護を徹底している。
	(1)子どもの記録情報管理に関して、園内での取扱いルールがある。

	(コメント)マニュアル等で個人情報の取り扱いについてのルールが示されていた。
	(2)子どもの記録情報に関するルールが、適正に運用実施されている。
	(コメント)
	(3)子どもの個人情報を外部とやり取りする際の取扱いについて、保護者への説明がなされて同意を得ている。
	(コメント)個人情報の取り扱いについて保護者へ説明がされていた。

④家庭や小学校、地域との連携	
✓□1. 小学校教育との円滑な接続のために教育・保育の内容を工夫している。	
(1)発達や学びの連続性を理解し、子どもに必要な体験が得られるよう園の全体的な計画における教育課程を編成している。	
(コメント)円滑な接続がなされるような教育課程を編成していた。	
(2)園と小学校の子ども同士の交流や、保育者と小学校教諭との意見交換等、研修・研究の機会を設けている。	
(コメント)小学校の児童との交流や教員間の意見交換等、研修、研究の場を行政を巻き込み行われていた。	
✓□2. 子どもの成長発達について保護者との連携を行い、保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている。	
(1)園からのお便り等を活用し、日々の実践や年間の行事における子どもの様子や教育・保育の意図について保護者に伝えている。	
(コメント)	
(2)日々のコミュニケーションや連絡帳、行事等、あらゆる機会を通じて子どもの状況を保護者と共有し、子育ての喜びにつながるよう工夫している。	
(コメント)子どもの様子や保育の意図をお便りや電話連絡、ICT等で保護者へ伝えていた。	
(3)子育てについて気軽に話合えることができるような場の設定や教育相談等を開催している。	
(コメント)	
(4)保護者懇談会や行事等で保護者同士の話し合いの場や協同で取り組む場を提供したり、保護者の自主的な活動に協力するなど保護者間の連携や交流を支援している。	
(コメント)保護者間の連携や交流の場があった。	
(5)様々な課題を抱える家庭環境を考慮し、子どもが育つ家庭や地域の現状について研修会に参加する等理解を深めている。	
(コメント)	
(6)特別な配慮を必要とする子どもに対する理解を深め、地域の専門的な機関と連携し教育・保育に取り組むことができるよう研修等を行っている。	
(コメント)特別な配慮を必要とする子どもに対する理解を深めるために様々な機関と連携し、研修等にも参加していた。	
✓□3. 自己評価・関係者評価に取り組み、その結果を保護者や地域に伝える等、園全体で教育・保育の質の向上のために改善がなされるよう手立てを行っている。	
(1)積極的に研修・研究に参加し自己研鑽に励むことができるよう支援している。	
(コメント)	
(2)自己評価に際し、保護者を対象にしたアンケートを資料として活用するなどして、保護者からの意見に誠実に応える姿勢を持っている。	
(コメント)自己評価を行い、園の課題について取り組みを行っていた。	
(3)保護者と園が信頼関係を深めることができるような取組をしている。	
(コメント)保護者と園が信頼関係を深めることができるような取り組みが行われていた。	
✓□4. 子育て親育ちの場として、地域における子育ての支援に関するセンター的役割を果たしている。	
(1)園の機能や施設を広く地域に開放している。	
(コメント)	
(2)未就園児親子教室や教育相談を実施し子育ての情報提供を行う等、子育て支援事業に積極的に取り組んでいる。	
(コメント)子育て支援事業を行い、地域の子育てに関する取り組みを積極的に行っていた。	
✓□5. 教育時間終了後等に行われる保育は、子どもの生活にふさわしい指導計画の下に行っている。	
(1)子どもの心身の負担を考慮しくつろげる環境がある。	

	(コメント)子どもの心身の負担を考慮し、くつろげる環境があった。
	(2)年齢の異なる子どもと楽しく遊ぶことができるような工夫をしている。
	(コメント)
	(3)保育者等の交替時には、登園時からの子どもの様子を保育者間で確実な方法で引き継いでいる。
	(コメント)
	(4)降園時に、子どもの日中の様子を保護者に直接伝えている。
	(コメント)
	✓□6. 地域の資源を積極的に活用し子どもが豊かな生活体験を得ることができるような機会を設けている。
	(1)地域の自然、人材、行事、公共施設等、地域の教育力を活用し総合的な教育・保育を進めている。
	(コメント)地域の自然、人材、行事、公共施設等、地域の教育力を活用し総合的な教育・保育を進めていた。
	(2)園行事に地域住民が参加したり、地域行事に子どもたちが参加する等、子どもが保育者以外の様々な年代の人と交流できる機会を確保している。
	(コメント)子どもが地域の人と交流できる機会を確保していた。
	(3)地域とのつながりの中で園の教育・保育の方針や内容を伝える等、乳幼児期の教育・保育に関する理解が深まるような連携を図っている。
	(コメント)地域に対し、園から情報発信が行われていた。

B 運営

①運営体制

□1. 教育・保育に対する理念や方針が明確である。

理念に基づく教育・保育に対する基本方針を明文化している。

(コメント)重要事項説明書等に明記している。

保育者に対して、周知している。

(コメント)職員会議等を通して周知されている。

保護者に対して周知し、同意を得ている。

(コメント)園紹介などで園の教育方針を打ち出し重要事項説明書で同意が取れている。

時代に即した見直しをしている。

(コメント)時代に即した見直しを行っている

□2. コンプライアンスを遵守し、管理体制を構築している。

遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。

(コメント)遵守すべき法令等を理解するための取組を行っている。

個人情報の管理について、全保育者で共通認識し、適切な管理を行っている。

(コメント)就業規則等に明記し共通認識を図っている。

(3)守秘義務を遵守する取組を行っている。

(コメント)就業規則に規定し、遵守している。

保育者に対してSNSなどの取り扱いについて適切に指導している。

(コメント)就業規則等で規定している。

学籍簿などの書類を適切に保管・管理している。

(コメント)適切に保管・管理されている。

法人関係の書類を適切に保管・管理している。

(コメント)適切に保管・管理されている。

□3. 会計事務を適切に行っている。

帳票等を整備し、公認会計士の監査を実施している。

(コメント)各種帳票は整備され、公認会計士の監査を実施している。

□4. 適切な教育環境を維持するために必要な財源が確保されている。

園運営にとって適正な保育料と特定保育料を設定し財源を確保している。

(コメント)北九州市が定める利用者負担(保育料)額である

(2)財務分析を行い、中長期的な計画を立てている。

(コメント)財務分析を行い、計画を立てている。

□5. 学校評価を実施している。

(1)自己点検・自己評価を実施し公開している。

(コメント)自己評価を実施して公開している。

(2)学校関係者評価を実施し公開している。

(コメント)今回の公開保育が学校関係者評価としても実施された。

(3)財務情報を公開している。

(コメント)財務諸表が公開されている。

(4)評価結果を基に事業計画を見直している。

(コメント)評価結果は事業計画書に反映されている。

□6. 適正な法人運営を行っている。

(1)理事会、評議員会を適切に開催している。

(コメント)双方とも定期的かつ適切に開催されている。

(2)議事録を整備している。

	(コメント)理事会及び評議員会の議事録が整備されている。
	(3)法人業務にかかる登記が適切に行われている。
	(コメント)登記は適切になされている。
	□7. 継続して勤務できる職場環境に努めている。
	(1) 就業規則を整備し、閲覧できる環境である。
	(コメント)就業規則は閲覧できるよう環境を整えている。
	(2) 雇用条件・労働条件を周知している。
	(コメント)採用時に労働条件通知書を作成し、周知している。
	(3) 教職員の適切な労務管理を行っている
	(コメント)労務管理は適切に行われている。
	□8. 健康で働きやすい職場環境実現のため取り組んでいる
	(1) 教職員の福利厚生が充実している。
	(コメント)離職率も低く、有休も取得しやすい環境作りを行っている。
	(2) 教職員同士の良好な人間関係づくりに努めている。
	(コメント)教職員同士の良好な人間関係づくりに努めている。
	(3) 教職員の悩みなどに対応するフォローアップ体制が構築されている。
	(コメント)学園で相談できる体制が構築されている。
	□9. 人材確保について対策を講じている
	(1) 実習生・ボランティア・インターンシップなどの受け入れを積極的に行っている。
	(コメント)実習学生の受け入れ、インターンシップなどの受け入れを行っている。
	(2) 教職員採用選考時に就職差別につながる内容がないか検討している。
	(コメント)就職差別につながる内容は無い。
	(3) 保育者養成校との連携活動を行っている。
	(コメント)実習学生の受け入れや学園短大とも連携している。
	(4) 勤続年数を延ばすための取り組みを行っている。
	(コメント)福利厚生を含め、長く勤めることのできる職場づくりに取り組んでいる。
	□10. 教育及び保育の質を向上させるための運営体制が整備されている。
	(1) 職員会議(全体ミーティング)等を必要に応じて実施している。
	(コメント)定期的に時間を確保し、情報交換、共通理解に努めている。
	(2) 園内研修を行っている。
	(コメント)園内研修を行っている。
	(3) 園外研修に参加させている。
	(コメント)園外研修に積極的に参加させている。園長自ら修士課程を受講している
	(4) キャリアパス制度を設けている。
	(コメント)キャリアパス制度を設けていた。

②安全管理	
□1. 自然災害や事故等を想定した危機管理マニュアルを策定し、訓練を実施している。	
(1) 火災マニュアルを整備し、訓練をしている。	
(コメント)災害対策マニュアルが整備されている。	
(2) 自然災害マニュアルを整備し、訓練をしている。	
(コメント)「風水害」「地震」対応マニュアルが整備、掲示されていた。	
(3) 事故マニュアルを整備し、訓練をしている。	
(コメント)危機管理マニュアルが整備され、訓練も行っている。	
(4) 防犯(不審者)マニュアルを整備し、訓練をしている。	
(コメント)防犯マニュアルが整備されている。	
(5) 虐待対応マニュアルを整備し、速やかな対応ができるよう体制が整っている。	
(コメント)虐待対応マニュアルが整備されている。	
□2. 教育・保育における危機管理マニュアルを定期的に見直している。	
(1)事故報告やヒヤリハット報告があり、職員間で情報共有し、再発防止にむけて話し合いを行い、対処している。	
(コメント)事故報告書・ヒヤリハット報告書が整備され、職員間で共有されている。	
(2)小さなけがであっても状況を把握し、必要に応じて保護者に報告するシステムを構築している。	
(コメント)保護者への連絡体制が構築されている。	
(4) 子どもを教育・保育する際は、適正に職員を配置し、緊急時にも対応できる体制を整えている。	
(コメント)教職員配置計画が整備されている。	
(5) 教職員管理マニュアルを作成対応している。	
(コメント)教職員管理マニュアルが作成されている。	
□3. 園舎、遊具及び車両の安全点検や保育環境のチェックを定期的に行い、必要に応じ改善を行っている。	
(1) 園舎全般の安全点検を定期的に行っている。	
(コメント)定期的に固定の職員が安全点検チェック表で行っている。	
(2)室内の備品および遊具の安全を定期的に確認している。	
(コメント)定期的な安全点検がなされている。	
(3)園庭遊具の安全を定期的に確認している。	
(コメント)職員による安全点検がなされている(目視)。	
(4)車両の安全を定期的に確認している。	
(コメント)車両の安全確認を行っている。	
□4. 園児の衛生・健康管理に努めている。	
(1)食中毒を防止するために衛生管理に努めている。	
(コメント)衛生管理が徹底されている。	
(2)感染症発症時には、保護者に周知し、園内の衛生管理を徹底するなど、教職員・保護者の協力や連携により拡大防止に努めている。	
(コメント)緊急時には ICT を活用し、即時連絡ができるように整備されている。	
(3)アレルギー対応については、アレルギー食品の確認、献立の確認、誤食した場合の対応方法など、医師の診断書に基づき、保護者と確認のうえ、実施している。	
(コメント)管理栄養士と連携しアレルギー対応の個別ファイルを作成し相互の確認の上、実施している。	

③子育ての支援	
<input type="checkbox"/>	園児の成長を通じて、保護者の親育ちを支援する取組を行っている。
	(コメント)送迎の際にいつでも保育の様子を観察できるよう配慮している。
<input type="checkbox"/>	園の機能や施設を広く地域に開放し、子育て親育ちの場として、地域における幼児期の教育のセンター的役割を果たしている。
	(1)子育ての支援に関する事業を実施している。
	(コメント)未就園児の子育て支援教室を実施している。
	(2) いわゆる預かり保育や一時預かり事業(幼稚園型または一般型)を実施している。
	(コメント)預かり保育や一時預かり事業(幼稚園型)を実施している。
	(3) 子育てに関する講演会などを実施している。
	(コメント)子育てに関する園長先生の相談会を実施している。
	(4)カウンセラー事業を実施している。
	(コメント)子育て相談を実施している。